

国立民族学博物館研究報告 vol.14-4; 表紙, 目次ほか

雑誌名	国立民族学博物館研究報告
巻	14
号	4
発行年	1990-03-19
URL	http://hdl.handle.net/10502/00009210

1989—14.4号
卷

国立民族学博物館 研究報告



アーネムランド・アボリジニの生活史

——ジナン族ガマディ・アウトステーションに居住する2人の男性の事例—— 松山利夫

異文化環境のアラブムスリム

——ヴァンクーヴァーのエジプト人ムスリムの事例研究—— 片倉もとこ

En Busca de Santa Rosa: Reflexiones en Torno a una Biografía

Duradera—— Luis Millones

La Fiesta de los Cuzqueños: la Procesión del Corpus

Christi—— Jorge A. Flores Ochoa



国立民族学博物館

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園 TEL. 06-876-2151

国立民族学博物館研究報告

14 卷 4 号

1989 年

目 次

アーネムランド・アボリジニの生活史 —ジナン族ガマディ・アウトステーションに居住する 2人の男性の事例—	松山利夫	783
異文化環境のアラブムスリム —ヴァンクーヴァーのエジプト人ムスリムの事例研究—	片倉もとこ	821
En Busca de Santa Rosa: Reflexiones en Torno a una Biografía Duradera	Luis Millones	891
La Fiesta de los Cuzqueños: la Procesión del Corpus Christi	Jorge A. Flores Ochoa	909
彙 報		957
国立民族学博物館研究報告 14巻 総目次		963
国立民族学博物館研究報告寄稿要項		964
国立民族学博物館研究報告執筆要領		965

BULLETIN OF THE NATIONAL MUSEUM OF ETHNOLOGY

Vol. 14 No. 4

1989

MATSUYAMA, Toshio	A Case Study on Life History of Two Aboriginal Men in Arnhem Land, North Australia	783
KATAKURA, Motoko	Muslims in a Non-Islamic Environment: A Case Study of Egyptian Community in Vancouver, Canada	821
MILLONES, Luis	In Search of Saint Rosa of Lima: Reflections on an Enduring Biography	891
FLORES OCHOA, Jorge A.	A Cuzco Festival: The Corpus Christi Procession	909

彙報 (平成元年10月～平成元年12月)

人事移動

(教育職) (配置換)
 10月1日 第二研究部助教授 田村 克己
 (金沢大学助教授)
 (昇任)
 10月16日 第二研究部教授 松澤 員子
 (第二研究部助教授)
 第五研究部教授 垂水 稔
 (第五研究部助教授)
 12月31日 (退職)
 第五研究部教授 ケネス・ラドル

シンポジウム

「現代日本文化における伝統と変容」
 ー情報と日本人ー

期間 平成元年12月20日(水)～22日(金)

場所 国立民族学博物館

今回は、「情報と日本人」をテーマにして、生産現場から家庭生活まで、あらゆる場所で情報通信の技術革新が急速にすすむなかで、日本人にとっての「情報化」の意味、「情報化」が日本人におよぼす影響などが、近代史をさかのぼりながら、討論する。

シンポジウム委員会

委員長

野村 雅一 国立民族学博物館第五研究部

事務局

朝倉 敏夫 国立民族学博物館第四研究部
 庄司 博史 国立民族学博物館第三研究部
 吉田 憲司 国立民族学博物館第二研究部
 木田 良次 国立民族学博物館管理部研究協力課共同利用係
 今田 好子 「伝統と変容」事務局

報告者

飯沢耕太郎 写真評論家
 井上 俊 大阪大学

大西 行雄 琵琶湖研究所
 嘉田由紀子 琵琶湖研究所
 北村 光二 弘前大学
 久保 正敏 国立民族学博物館
 佐藤 健二 法政大学
 関 一敏 筑波大学
 高田 公理 愛知学泉女子短期大学
 端 信行 国立民族学博物館
 野村 雅一 国立民族学博物館
 吉見 俊哉 東京大学

討論参加者

石毛 直道 国立民族学博物館
 石森 秀三 国立民族学博物館
 泉 幽香 国立民族学博物館
 井上 忠司 甲南大学(民博客員)
 梅棹 忠夫 国立民族学博物館
 栗田 靖之 国立民族学博物館
 小山 修三 国立民族学博物館
 杉田 繁治 国立民族学博物館
 祖父江孝男 放送大学
 竹村 卓二 国立民族学博物館
 中牧 弘允 国立民族学博物館
 森田 恒之 国立民族学博物館
 守屋 毅 国立民族学博物館
 吉本 忍 国立民族学博物館
 米山 俊直 京都大学

日程

12月20日(水)

10:00 受付
 (司会 竹村 卓二)
 10:30 あいさつ 梅棹 忠夫
 11:30 問題提起:情報と日本人 野村 雅一
 <情報の発信と咀嚼>
 (司会 中牧 弘允)
 11:30 「生活」というコンテキストと「情報」ー災害時における情報伝達と流言ー 北村 光二
 14:00 伝達媒体としての建築物ー天理教の「神殿」「おやさとかた」普請をめぐるー 関 一敏

- (司会 栗田 靖之)
 15:00 近代読書の誕生と変容をめぐって
 佐藤 健二
 16:15 電縁遠野物語—パソコン通信『湖
 鮎ネット』と環境情報—
 嘉田由紀子
 大西 行雄

12月21日(木)

- <人間の側の変化>
 (司会 石森 秀三)
 10:30 電話コミュニケーションの変容
 吉見 俊哉
 11:30 情報化と生活意識の変化—情報の
 「多層化」と生活意識の「演劇化」

海外における研究・調査・収集活動

氏名	官職	出発	帰国	行先
杉村 棟	教授(第二研究部)	1.10.1	1.11.18	ソビエト連邦
田邊 繁治	助教授(第二研究部)	1.10.1	2.3.18	タイ, 中華人民共和国
黒田 悦子	教授(第四研究部)	1.10.2	1.11.10	スペイン
石毛 直道	教授(第一研究部)	1.10.7	1.10.18	フランス
塚田 誠之	助手(第三研究部)	1.10.11	1.1.31	中華人民共和国
ケネス・ラドル	教授(第五研究部)	1.10.20	1.12.23	フィリピン, シンガポール, マレーシア, アメリカ合衆国, タイ, バングラディシュ
吉本 忍	助手(第二研究部)	1.10.21	1.11.2	インドネシア
林 行夫	助手(第四研究部)	1.10.23	1.12.9	タイ
杉田 繁治	教授(第五研究部)	1.10.25	1.11.22	インド
佐藤 浩司	助手(第四研究部)	1.10.29	1.11.14	インドネシア
朝倉 敏夫	助手(第四研究部)	1.11.6	1.11.28	大韓民国
大森 康宏	助教授(第三研究部)	1.11.20	2.9.30	フランス, 連合王国, イタリア, スペイン, ポルトガル, スイス, オーストリア, ドイツ連邦共和国, ベルギー, オランダ, デンマーク, スウェーデン
松澤 員子	教授(第二研究部)	1.11.23	1.11.27	大韓民国
江口 一久	助教授(第三研究部)	1.12.1	2.2.28	フランス, トーゴ, カメルーン
山本 紀夫	助教授(第四研究部)	1.12.4	2.1.27	アメリカ合衆国, ベルギー
藤井 知昭	教授(第五研究部)	1.12.11	1.12.22	中華人民共和国
利光 有紀	助手(第一研究部)	1.12.11	1.12.30	中華人民共和国
石毛 直道	教授(第一研究部)	1.12.12	1.12.16	大韓民国
和田 正平	教授(第三研究部)	1.12.16	2.1.13	ケニア, タンザニア
長野 泰彦	助教授(第一研究部)	1.12.18	1.12.27	インド

- 井上 俊
 (司会 小山 修三)
 14:00 近代都市の成立と写真
 飯沢耕太郎
 <情報の価値と「情報産業」>
 15:00 情報の価値と流通—そのモデル論
 的考察— 久保 正敏

12月22日(金)

- (司会 石毛 直道)
 10:30 経済と情報 端 信行
 11:30 「情報産業論」の再考
 高田 公理
 (司会 野村 雅一)
 14:00 総括討論

来館者抄

- 10月3日 エマニュエル・デボン（カメルーン，科学技術高等教育省動物学研究所長）
Abdul K. ALI（マレーシア，人事院人材開発部東方政策担当課長）
Abu Shamsi RANI（マレーシア，同課課長補佐）
- 10月4日 小川弘一（岐阜市歴史博物館長）
白木 正（同館学芸係長）
- 10月5日 パルガス・リョサ（ペルー，ペンクラブ会長）夫妻
ミゲル・ベガ・アルベアル（ペルー，ペルー工業会長・ペルー民間経営者団体連合会長）夫妻
フェリペ・ソ نداイク（ペルー，ペルー石油公社副社長・国家エネルギー審議会長）夫妻
- 10月12日 中国北京民族文化宮代表団一行
団長 郭金鋒，趙 義，王景亭，王復舜，尹 昭，曹宇東
- 10月13日 Donald H. RUBINSTEIN（グアム，グアム大学ミクロネシア研究センター長）
Hiro KURASINA（グアム，同助教授）
- 10月16日 第16回東南アジア日本留学生の集い参加者一行
- 10月17日 劉 学 堂（中国，新疆文物考古研究館員補）
アンニーワーアル・ハスム（中国，新疆ウイグル自治区博物館館員補）
Abul Monsur MUSA（バングラディッシュ，ダッカ大学現代言語研究所長）
- 10月18日 辻 健介（学術情報センター事業部データベース課長）
大野 透（同課文献データベース係長）
- 村田 輝（同課数値画像データベース係員）
- 10月19日 高橋家利（愛知県教育委員会文化財課課長補佐）
長崎 稔（同課主事）
- 10月21日 台湾台中文化建設考察団一行
団長 洪慶峯他20名
- 10月22日 Loretta Wong REKLAI（パラオ諸島，行政省施設・調達局長）
Danny JACK（マーシャル諸島，内務・離島問題離島局長）
Klasdin LIHPAI（ミクロネシア連邦，予算庁予算局長）
- 10月23日 Farouk SHOUSHA（エジプト国営カイロ放送副会長兼文化番組編成局長）
- 10月24日 Maria Carmen HUERA CABEZA（スペイン，バルセロナ市立民族博物館長）
- 10月26日 Abdelkebir KHATIBI（モロッコ，モハメッド五世大学付属科学調査研究所教授）
- 10月28日 国立考古学博物館群馬県誘致推進協議会一行
フィリピン教育家日本研修団員一行
- 10月31日 長崎県児童科学館視察団一行
田中一壽（長崎市立小学校教諭）
高木久人（同）
川里小之（長崎市立中学校教諭）
東島武司（長崎市図書センター社会教育主事補）
宮崎 勉（長崎市教育研究所指導主事）
Evon VOGT（元ハーバード大学教授）
- 11月3日 薛 虹（中国，東北師範大学明清史研究所教授）
永 功（中国，遼寧省案館副研究員）

- 楊慶鎮（中国，遼寧省社会科学
学院副研究員）
- 11月6日 姚 穆（中国，西北紡織工
学院名誉院長）
李宝德（中国，同院副院長）
李辛凱（中国，同院教授）
張長林（中国，同院助教授）
朱松文（中国，同院助教授）
趙 林（中国，同院講師）
- 11月7日 中国蚌埠市經濟友好代表團一行
團長 劉 萃（市委員会副
書記）
丁 錦 祝（市教育委員会主任）
王 偉（市外事弁公室主任）
張 儀 賓（中国人民銀行蚌埠
分行長）
楊 彬 意（市第二輕工業局長）
劉 開 会（市外事弁公室旅遊
科長）
- 11月9日 村上亘司（東京都生活文化局コ
ミュニティ文化部江戸東京博物
館建設準備室副参事）
吉村光男（財団法人東京都文化
振興会江戸東京博物館資料収集
室次長）
山崎晶子（同会同室主事）
板谷敏弘（同会同室主事）
鈴木俊明（通商産業省大臣官房
情報業務室業務係長）
工藤 裕（同情報管理課）
柳原聡子（同通商産業研究所政
策情報システム部）
片山啓次（同近畿通商産業局情
報管理室長補佐）
武田至弘（同局情報管理室電子
計算専門職）
岡 一之（同局同室）
李 （韓国，国立中央博物
館）
加治幸子（東京都美術館事業課
図書係司書）
- 野崎たみ子（同）
加藤弘子（同事業係学芸員）
- 11月17日 国際協力事業団沖縄国際センタ
ー情報処理要員養成マネジメン
トコース研修員一行
Jorge Hugo Bruno（アルゼ
ンチン，電気情報処理センタ
ー，総合局員アシスタント）
Edison Luiz Komka（ブラジ
ル，システムアナリスト）
Alfonso Reyes Valdivieso（チ
リ，産業技術者）
Guillermo Portales Cabello
（同，国家企画図書館長）
Alla El-din Mohamed Fahmy
（エジプト，情報デザインセ
ンターエジプト委員会，マイ
クロコンピューターシステム
開発部部長）
Manuel Reynaldo Bewdez
Conteras（ホンジュラス，通
信・公共事業・運輸省アナリ
スト）
Norma Isabel Acosta（同，
外務省情報処理部門，プログ
ラミングセクション主任アナ
リスト）
Kah Po Karen Kuan（香港，
政府情報処理局アナリスト/
プログラマー）
Dewi Kartikawati（インドネ
シア，通産省情報処理部研究
開発課秘書）
Nujod Sab-El-Aish（ジョル
ダン，文部省，コンピューター
センター主任）
Mariah Bt. Hassan（マレイ
シア，文部省コンピューター
サービス先任システムアナリ
スト）
Edgar Shinichi Maezono（パ

- ラグアイ, 農牧省システムアナリスト)
 Teresita B. Roberto (フィリピン, 国家コンピューターセンタープロジェクトマネージャー)
 Hamad Sulaiman Alqasoumi (サウディ・アラビア, 大蔵省, サウジ税関オートメーション部代理局長)
 Rasana Patimaprakorn (タイ, 国家入国管理局情報処理部システムアナリスト)
 Sumun Wangmala (タイ, 法務省コンピューターセンタープログラマー)
 Zvezdan Horvat (ユーゴスラビア, 工業システム専門学校, 科学技術学部技術助手)
 シャムスル A. B. (京都大学東南アジア研究センター外国人研究員)
 ザイナル・クリン (同センター外国人共同研究者)
 H. M. ダーラン (同)
 アナス・サイディ (同)
 ダルマワシ・イリアス (同)
 金 文 武 (韓国, 韓国文化芸術振興院振興二局長)
- 11月20日 セネガル共和国報道関係者一行
 Djib DIEDHIOU (ル・ソレイユ紙主筆補佐)
 Babacar DIAGNE (国営テレビ・ラジオ局ニュース報道部主幹放送記者)
 Mamadou NDIAYE (ワル・ファジリ紙経済・外交欄担当記者)
 Marie-Louise BENGGA (フリーランサー)
- 11月21日 韓国「国立国楽院」訪日研修団一行
- 趙 南 熙 (国立国楽院管理課)
 関 丙 昌 (同院掌案課)
 金 敬 洙 (同院振興課)
 文 鉉 (同院国楽研究室)
 洪 祐 成 (同院掌案課)
- 11月23日 初 世 賓 (中国, 甘肅省博物館長)
 謝 駿 義 (中国, 同館副館長)
 孟 軍 (中国, 甘肅省人民政府外事弁公室職員)
- 11月24日 Vernon ALDEN (アメリカ合衆国, ボストン日米協会会長)
 Manzoor AHMAD (パキスタン, カラチ大学文学部長)
- 11月27日 Harka GURUNG (ネパール, 地理学者・作家・元大臣)
 Banira GIRI (ネパール, トリブバン大学パドマ・カンニャ校ネパール文学部長)
 沖縄県公害衛生研究所技術者コース研修員一行
 Sri Kuswandari (インドネシア, 保健者, 疫病対策・環境保健部環境保健課長)
 Khadija Ibrahim Mohammed (イラク, 保健省, 食品分析研究所研究員)
 Shony Alwin Toma (イラク, 保健省, バグダッド環境保護局大気汚染課長)
 Myrna Lagatao Rosario (フィリピン, 保健省第一地域, イロコス地域衛生研究所医療技術官)
 Praphasri Eamsobhana (タイ, 公衆衛生省, 衛生局職業保健課環境衛生技術官)
 Samiddh Sim (カンボディア, ノロドムシアヌク殿下公室, B居留地赤十字献血センター書記長)

- 11月28日 九州国立博物館構想懇話会委員一行
 高島忠平（佐賀県教育庁文化課参事）
 梅田和郎（長崎県立美術館長）
 外村次郎（熊本県立美術館長）
 後藤昭六（大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館長）
 山本一鷹（宮崎県総合博物館長）
 福田晴夫（鹿児島県立博物館長）
 大城宗清（沖縄県立博物館長）
 田村圓澄（九州歴史資料館長）
- 11月29日 前田正満（高エネルギー物理学研究所情報資料室長）
 枝川 峰（同所同室情報資料第一係）
- 11月30日 西来路浩子（国立国会図書館司書）
 情報処理学会中部支部会員一行
- 12月1日 中国陝西省文物保護視察団一行
 団長 陳 全 方（陝西省文物局副局長）
 尹 盛 平（陝西省文物局文物処処長）
 韓 曉 安（陝西省人民政府外事弁公室友城処主任科員）
 米 洪 樂（陝西省人民政府外事弁公室幹部）
- 12月5日 E. Jeffrey STANN（アメリカ合衆国、スミソニアン研究機構長）
 中華全国新聞工作者協会代表団一行
 団長 唐 非（中華全国新聞工作者協会書記処書記）
 団員 藍 振 華（新疆日報副社長）
 沈 于 正（中国少年報社長兼総編集）
 宜 洪 斌（吉林日報常務副総編集）
 程 理 嘉（科技日報副総編集）
 陳 達（中国教育報副総編集）
 王 一 義（浙江科技日報総編集）
 談 忠 余（広西テレビ局副局長）
 孔 祚 繁（四川省新聞工作者協会書記）
 趙 石 宝（光明日報理論部副主任）
 蘇 海 河（中華全国新聞工作者協会国際連絡日本担当）
- 12月8日 技術動向専門委員会委員一行
- 12月14日 中国国家教育委員会視察団一行
 団長 候 詢（中国科学院西安光学機械研究所長）
 許 琳（中国国家教育委員会財務局副所長）
 王 英（中国国家教育委員会計画建設局所長）
 徐 金 埜（国家自然科学基金会高給エンジニア）
 任 夏 武（国家計画委員会科学技術局項目官員）
 齊 平（西安光学機械研究所）
- 12月18日 平成元年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修一行
- 12月22日 文 玉 杓（韓国、韓国精神文化研究所助教授）

国立民族学博物館研究報告 14巻 総目次

14巻 1号

林 行夫：ダルマの力と帰依者たち ——東北タイにおける仏教とモータム——	1
小馬 徹：両手の拳，社会，宇宙 ——手の指による数の指示法に組み込まれたキプシギスのコスモロジー——	117
黒田 悦子：チカーノの来た道 ——その歴史的経緯——	167
石毛 直道：魚醬の起源と伝播 ——魚の発酵製品の研究 (8)——	199

14巻 2号

八杉 佳穂：中米の言語の語順の類型論的研究	259
永ノ尾信悟：Mahādevapūjā ——Mithilā 地方の事例報告——	379
塚田 誠之：中国広西のチュアン(壮)族・ヤオ(瑤)族と漢族との 政治=文化的関係の比較考察——1368-1949年における——	453

14巻 3号

八杉 佳穂：中米諸語の数体系	519
佐々木史郎：アムール川下流域諸民族の社会・文化における清朝支配の影響について	671

14巻 4号

松山 利夫：アーネムランド・アボリジニの生活史 ——ジナン族ガマディ・アウトステーションに居住する2人の男性の事例——	783
片倉もとこ：異文化環境のアラブムスリム ——ヴァンクーヴァーのエジプト人ムスリムの事例研究——	821
Luis Millones: En Busca de Santa Rosa: Reflexiones en Torno a una Biografía Duradera	891
Jorge A. Flores Ochoa: La Fiesta de los Cuzqueños: la Procesión del Corpus Christi	909

国立民族学博物館研究報告寄稿要項

1. 国立民族学博物館研究報告は、民族学（文化人類学）に関する論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等を掲載・発表することにより、民族学（文化人類学）の発展に寄与するものである。
2. 国立民族学博物館研究報告に寄稿することができる者は、次のとおりとする。
 - (1) 国立民族学博物館（以下「本館」という。）の教官（客員教授等を含む。）及び本館の組織、運営に関与する者
 - (2) 本館が受け入れた各種研究員及び研究協力者
 - (3) その他本館において適当と認められた者
3. 原稿を寄稿する場合は、論文、資料・研究ノート、調査研究活動報告等のうち、いずれであるかをその表紙に明記するものとする。なお、この区分についての最終的な調整は、国立民族学博物館研究報告編集委員会（以下「編集委員会」という。）において行う。（編集する場合は、原則として論文及び資料・研究ノートを1段組、その他のものを2段組として取り扱う。）
4. 原稿執筆における使用言語は、日本語、英語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語及びドイツ語のうちいずれを用いても差し支えない。ただし、その他の言語を用いる場合は、編集委員会に相談するものとする。
5. 特殊な文字、記号、印刷方法等が必要な場合は、編集委員会に相談するものとする。
6. 寄稿する原稿が論文で、日本語を使用する場合は、原則として英文により500語程度の要旨を付けるものとし、その他の言語による論文の場合は、編集委員会に相談するものとする。なお、寄稿する原稿については、執筆者名のローマ字表記及び原稿表題の英文を付記しなければならない。
7. 寄稿する原稿の枚数は、原則として制限しない。ただし、編集する場合は編集委員会の判断により、紙数等の関係から分割して掲載することがある。
8. 寄稿する原稿は、必ず清書（欧文の場合はタイプ）し、原稿の写し1部を添付するものとする。なお、図、表のスミ入れ、レタリングは、編集委員会で処理する。
9. 寄稿された原稿は、審査委員会において審査のうえ、採否を決定する。なお、原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。
10. 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
11. 原稿の執筆に当たっては、別に定める「国立民族学博物館研究報告執筆要領」による。
12. 原稿の寄稿先及び連絡先は、次のとおりとする。

〒565 大阪府吹田市千里 万博公園10-1
国立民族学博物館内
国立民族学博物館研究報告編集委員会（電話 代表 06-876-2151）

国立民族学博物館研究報告執筆要領

1. 原稿は、200字詰原稿用紙を使用し、横書きとする。
2. 原稿は、図、表を除き、原則として黒インクを使用する。
3. 日本語を使用して執筆する場合は、原則として当用漢字、現代かなづかいを用いる。
4. 句読点、括弧、各種記号等は、原則として原稿用紙のマス目1字分の扱いをする。
5. 原稿中の年号、月日及びその他の数字は、原則としてアラビア数字を用いる。なお、年号は、原則として西暦とする。
6. 図及び表は、一図、一表ごとに別紙に書き、本文とは別に一括して添付するものとする。なお、図、表ごとに通し番号（「図1」、「表1」等の要領により記入）、図、表名及び説明並びに出典等を記し、本文原稿の欄外には、それぞれのそう入箇所を指定するものとする。
7. 写真は、写りの明瞭なもので、手札判以上の大きさに焼き付けたものに限る、図及び表の扱いに準じて通し番号、説明を付けたうえ、そう入箇所を指定するものとする。ただし、カラー写真は、原則として受け付けない。
8. 本文又は脚注において文献を指示する場合は、カギ括弧を付け、著者名、文献刊行年次、引用ページ数の順に下記の例に従って記載する。
【柳田 1942: 67-69】
【Leach 1961: 123】
【柳田 1942: 67-69, 1944: 20-22; Leach 1961: 123】
ただし、同年次刊行物の場合は、アルファベット順により、下記のように記載するものとする。
【柳田 1942a: 20-22】【柳田 1942b: 10】
9. 脚注は、一つ一つ別紙に記し、通し番号を付ける。なお、本文中に脚注をそう入する箇所には、脚注の当該番号を記入し、別紙の脚注には、本文のページ数を明記するものとする。
10. 本文及び脚注において参照した文献は、すべて原稿の末尾にまとめて下記の方法により記入する。
 - (1) 文献の配列は、著者名のアルファベット順とすること。
 - (2) 文献の記載は、著者名、年号、論題（タイトル）、誌名、巻、号、出版社名の順とすること。
欧文の雑誌名及び単行本名は、イタリック体にするため、原稿には下線を引くこと。また、ローマ字人名は、スモール・キャピタルとするため、二重下線を引き、日本文の場合は、論題にカギ括弧、雑誌名及び単行本名に二重のカギ括弧を付けること。雑誌の巻数及び号数は、原則としてアラビア数字を用いること。

(例)

論文の場合 (1)

石田英一郎

1948 「文化史的民族学成立の基本問題」『民族学研究』 13(4): 311-330.

Bohannan, P.

1973 Rethinking Culture: A Project for Current Anthropologist. Current Anthropology 14(4): 357-372.

論文の場合 (2)

杉浦 健一

1942 「民間信仰の話」柳田国男編『日本民俗学研究』岩波書店, pp. 117-143.

Leach, Edmund

- 1964 Anthropological Aspects of Language: Animal Categories and Verbal Abuse.
In Eric H. Lennenberg (ed.), New Directions in the Study of Language,
The M. I. T. Press, pp. 23-63.

単行本の場合

泉 靖一

- 1966 『文明をもった生物』 日本放送出版協会。

Murdock, George P. (ed.)

- 1960 Social Structure in Southeast Asia. Viking Fund Publications in Anthropology No. 29, Wenner-Gren Foundation for Anthropological Research, Inc.

翻訳書の場合

エリアーデ, M.

- 1974 『シャーマニズム——古代のエクスタシー技術——』 堀一郎訳 冬樹社。

van Gennep, Arnold

- 1960 The Rites of Passage. M. B. Vizedom and G. L. Caffee, trans., The University of Chicago Press.

国立民族学博物館研究報告 14卷4号

〔監 修〕

梅 棹 忠 夫

〔編集委員長〕

友 枝 啓 泰

〔編集委員〕

片 倉 素 子

崎 山 理

周 達 生

田 邊 繁 治

垂 水 稔

長 野 泰 彦

林 行 夫

宮 本 勝

八 杉 佳 穂

山 本 紀 夫

和 田 正 平

平成2年3月19日発行 非売品

国立民族学博物館研究報告 14卷4号

編集・発行 国立民族学博物館
〒565 吹田市千里万博公園10-1
TEL 06 (876) 2151 (代表)

印 刷 中西印刷株式会社
〒602 京都市上京区下立売通小川東入
TEL 075 (441) 3155 (代表)

Bulletin of the National Museum of Ethnology
vol.14 no.4
1989

- MATSUYAMA, Toshio** **A Case Study on Life History of Two Aboriginal Men in Arnhem Land, North Australia**
- KATAKURA, Motoko** **Muslims in a Non-Islamic Environment: A Case Study of Egyptian Community in Vancouver, Canada**
- MILLONES, Luis** **In Search of Saint Rosa of Lima: Reflections on an Enduring Biography**
- FLORES OCHOA, Jorge A.** **A Cuzco Festival: The Corpus Christi Procession**



**National Museum
of Ethnology**

Senri Expo Park, Suita, Osaka, Japan
phone 06-876-2151

ISSN 0385-180X